

## 前回フォーラムでのご意見と機構の対応

原子力機構における核不拡散・核セキュリティの活動実績と今後の方向性	
ご意見	機構の対応
1. (北朝鮮の核実験による放射性物質の検出が技術的に困難であるのであれば、)例えば北朝鮮から来た生物の捕獲による探知など、インテリジェンスと技術を融合した新たな探知技術の研究など大いにやったらどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下核実験では、地上に放出される放射性物質の量のごく微量であり、またそれが生物等に付着あるいは体内に蓄積しても、必ずしも検出できるとは限らない。また、当該地点や生物のバックグラウンドが事前に把握されていることが必要になることから、生物の捕獲による探知は難しい。</li> <li>探知に必要なインテリジェンス情報を原子力機構として入手することは難しいため、今のところこの情報を応用した新たな探知技術の研究は考えていない。ただし、探知能力向上のため、我が国及びその周辺の放射性キセノンのバックグラウンド挙動を把握するための調査・研究を進めていく。</li> </ul>
2. 中期計画に「関係行政機関の要請に基づき」という記載があるが、国の原子力政策と、原子力機構の政策研究の連携を確保するための構造的な枠組みを検討すべきではないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策研究等、原子力機構の本分野の活動を進めるに当たっては国の政策の支援に資するべく、関係行政機関との間で適宜意見交換を進めつつ実施していく。</li> </ul>
「原子力と核不拡散、核セキュリティに係る国際フォーラム」結果報告	
ご意見	機構の対応
3. 海外、特にアジアからのフォーラムへの参加者(パネリスト以外の一般参加者)を増やすことを検討してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の国際フォーラムに関し、経済産業省が担当する輸出管理に関するJICA研修に本フォーラムへの参加を組み込むことにより、アジアからの参加者を増やすことを検討中。</li> </ul>
福島第一原子力発電所の燃料デブリの保障措置・計量管理手法の構築	
ご意見	機構の対応
4. 燃料デブリの計量を行うにあたっては、測定技術だけでなく、燃料デブリをどう取りだすかの技術や、模擬デブリの製作技術の開発が必要となる。上位の会議体等と良く連携を図って欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デブリ計量管理方策グループとしては、デブリの取り出し技術や処置技術開発等を行うグループと情報交換を始めたところ。</li> </ul>